

## 令和4年度 学校関係者評価及び改善策

(中間・最終)

昭和中学校区 校番 24 学校名 昭和中央小学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「確かな学力(知)」「豊かな心(徳)」「健やかな体(体)」の向上を図っている。</li> <li>・目標設定が細かく設定されている。</li> <li>・身に付けることが明確なので、きちんと取り組めると感じた。</li> <li>・基礎学力の定着を図っている。</li> <li>・「聴いて考えてつなげる授業づくり」は、素晴らしい取組である。</li> </ul>
目標達成のための方策の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善のための方策を具体的に掲げている。</li> <li>・無理がなく続けていける方策である。</li> <li>・個々の学力や学習の状況を把握し、授業は勿論、チャレンジタイムや帯タイムを利用し、学習指導の重点化を図っている。</li> </ul>
自己評価の結果の分析の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つまずきを認識し、基礎的な学力定着のための継続的な指導を行っている。</li> <li>・「自分の考えを伝えることができる児童が全体の86%」という結果に対して、児童一人ひとりに思いがあり、伝え方もいろいろあると感じた。</li> <li>・どの重点項目も、できる児童とできない児童の差が大きいということが気になった。</li> </ul>
今後の改善策(案)の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・改善策として、授業力の向上、読書の推進、漢字力の習熟を図ること、相談・確認タイムの充実を図ること、自己学習能力を高めていくことは適切である。</li> <li>・先生方の「小さな良いところを日頃から知らせる」取組が子供たちの自己肯定感の高まりにつながっていると感じる。</li> <li>・様々な項目で、できている児童とできていない児童の差をどのようになくしていくかが課題になっていると思う。</li> <li>・多様化する学校では、学校と家庭が一体となつての取組が不可欠だが、地域との関わりも重要だと感じる。積極的にゲストティーチャーを活用してほしい。</li> </ul>
その他		<ul style="list-style-type: none"> <li>・呉市の中で一番積極的に防災授業に取り組んでいる学校だと思う。防災の授業は限られた時間での授業だが、呉市のどの学校でも本当にわが身を守る事が学べる内容にしていくことが大切だと実感している。</li> <li>・授業参観では、自分の考えをもつこと、伝えること、友達の意見を聞くこと等、子供達の中に見せて頂いた。</li> <li>・保護者や地域の学校への関わりについて考えることがとても大切だと思った。</li> </ul>
※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)		
学校関係者評価を受けての今後の改善策		<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教職員が部会に分かれ、「結果の分析と今後の改善策」について話し合ったが、今後は、今回の学校関係者評価を受けて、分掌部会でさらに改善すべきところを話し合い、実践していく。それを企画委員会で、各部長から進捗状況やさらなる改善策を報告し合い、共有化し、確実に進めていけるようにする。</li> <li>・教育活動全般に渡って、今後も保護者や地域の方々と連携し、子供たちの学びの充実を図る。</li> <li>・学校司書や司書教諭との連携を図り、読書活動のさらなる充実を図る。</li> </ul>